

日時 令和5年2月2日(木) 10:30~12:00

場所 鹿児島市立図書館 2階 AVホール

出席者 図書館協議会委員8名、事務局6名

### 【会次第】

- 1 開会
- 2 市立図書館長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 令和4年度の主な活動報告について
  - (2) 令和4年度利用者アンケート調査結果について
  - (3) 令和4年度天文館図書館企画連携会議について
- 4 その他
- 5 閉会

### 【議事概要】

#### 議事(1) 令和4年度の主な活動報告について

##### (市立図書館)

###### 委員

鹿児島純心女子短期大学からの提言内容を教えていただきたい。学生などの若い方たちがどういう切り口で考えているのか、我々としてもこれからのまちづくりに取り入れていきたいと考えている。

###### 事務局

鹿児島市は県内の大学・短期大学などとまちづくりについて包括的な連携協定を結んでおり、その一環として鹿児島純心女子短期大学へ出向き、天文館図書館について説明した。天文館図書館に来た人に本を読んでもらうためにはどうしたらいいか、5年後10年後も天文館図書館に来てもらうためにはどうしたらいいか、というテーマを設けて、学生の皆様から提言をいただいた。

天文館図書館に来た人に本を読んでもらうためにはどうしたらいいか、ということについては、そもそも若い層があまり本を読まないの、本を読んでもらうためのきっかけづくりが必要なのではないか、というアドバイスをいただいた。例えば、イベントごとの飾りつけをするといったことや、フォトスポットを設置するといったこと、本を借りた冊数に応じてポイントをつけて特典をつける、などの提言をいただいた。

5年後10年後も来たいと思える図書館にするためにはどうしたらいいか、ということについては、静かに本を読みたいという方のために、例えば個室状のスペースを設けて静かに本を読めるようにしたらどうか、といった提言をいただいた。

##### (天文館図書館)

###### 委員

天文館図書館でマンガナイトというイベントを開催した。そこには若い方だけでなく、年配の方もいらっちゃった。そこで取ったアンケートを見たところ、「若い方と年配者が一同に会すると、世代的な

話題になりがちだが、そうではなく、マンガというものを触媒にして、はじめて世代を超えて対等に話  
ができたのに感動した」という感想があった。現在、ヨーロッパの公共図書館では、人々のコミュニケ  
ーションの場としての役割が求められている。鹿児島には県立図書館、市立図書館、天文館図書館、サ  
ンエールの図書室など、それぞれ特色のある図書館がある。利用者の方にそれぞれの使い分けと使いこ  
なしを知ってもらいたい。そのために、県だから市だからといったことを超えて、大きな枠で図書館を  
使っていくことを発信していくことが必要だと思う。そのようになるためには、それぞれの図書館の売  
りを大事にしてほしい。

委員

この図書館協議会は、市立図書館と天文館図書館の2館について協議する場になっている。しかし、  
それぞれ独自のコンセプトや地理的な要因があるので、このままの会の行い方でよいのだろうかと思  
っている。2館を協議するのか、1館ずつ協議し委員もそれぞれの協議会で別とするのか、また次年度以  
降に考えていただくと協議もしやすいのではないか。

委員

個人的には、市立図書館と天文館図書館がお互いに情報を共有することが大事だと思う。どのよう  
なことを行ってきたかということや、現在こちらの館ではこういった点が弱いのもう片方の館でカバー  
するというなどを、このように一同に会して話し合いをすることは必要ではないか。

委員

お互いの館自体が連携をとって、この場で議論することは、随時していく必要がある。それぞれの予  
算上の制約などによりそれぞれの問題があるかと思う。館同士が連携をとり、その上で図書館協議会に  
て議論するという方法もあると思っている。

委員

この図書館協議会で天文館図書館をどうするかということを経験してきた経緯があり、実際にオープ  
ンしたところ、とても評判がいいので、自分のことのように嬉しく思う。様々な企画についてもセンス  
がよい。やりたいと思っていたようなことや、非常に具体的なレベルのものができていると思う。

一方で、これだけ様々な企画を行っている、司書の負担がとても大きいと思う。司書の精神的負  
担を少なくしたときに、よりよい図書館になっていくかと思う。また、市立図書館の窓口業務が委託に  
移行した際、それまでの市立図書館の時給のまま司書を雇用するようお願いした。司書の時給が下が  
ったりしないよう、雇用面をチェックしてほしい。最初は評判もよく、職員の方々も頑張れると  
思うが、継続して有能な人材を雇用するためには条件がとても大事だと思う。

委員

日本の有能な人材が海外に流出しているということを見て。日本の雇用条件では不安だとい  
うことで、海外に移住したり、働きに出たりといったことが非常に増えているとのことだった。市立図  
書館での雇用がよくなるような形で、管理していくことが大事だと思う。

## 議事（2） 令和4年度利用者アンケート調査結果について （市立図書館）

委員

昨年度に比べて満足度が減少している項目が多くあるが、これらが減少した理由はあるか。

事務局

推測になるが、天文館図書館ができ、市立図書館と天文館図書館とを比較した上での回答をされた方もいると考えている。今回の利用者アンケートは969件の回答をいただいたが、そのうち15%の方がWEB回答をされている。全体の回答数に対するWEB回答は令和3年度では9%であり、今回、WEB回答の比率が増えている。Facebookでもアンケートをとったことから、厳しいご意見をいただいたのではないかと考えている。

委員

電子書籍のコンテンツ数はどのぐらいか。市立図書館の全資料のうち、何%が電子書籍か。

事務局

電子書籍のコンテンツ数は現在約2,100点である。市立図書館の全資料で見ると、そのうちの何%と言えないほどのごく少ない数となっている。

事務局

市全体の蔵書数は約97万冊である。

委員

電子書籍の利用数は多いか。

事務局

利用される方は継続して利用されているが、広げていくところが課題だ。電子書籍の存在を知らないという方が、若い層にたくさんいた。天文館図書館のアンケートをとった際、電子書籍を入れてほしいという声は若い層からたくさん出ていた。しかし、その層にも行き渡っていないので、広報が大切だと思っている。また、もう少し自分たちにあった内容の資料を入れてほしいというご意見もあるので、資料の中身を検討する必要があると考えている。

委員

アンケートの自由意見のうち、開館時間に関することがトップに来ているが、これは数が多いということか。

事務局

多い順ではなく、便宜上、項目わけしているものである。

委員

開館時間については、例えば、伸ばして欲しいといったご意見を毎回いただいているが、これを実施するためには根拠をとらなければいけない。もっと開館時間を長くしてほしいとの意見をもとに、開館時間を伸ばしてみたものの、その時間の利用者がとても少ないということがある。市民の意見をもとに

前向きに検討をしていくことは必要だが、開館時間の問題はシミュレーション期間を取るなどして根拠づけをした方がよい。利用者がいなかったからと言って簡単にもとに戻すことはできないので、慎重に検討したほうがいいと思う。

#### 委員

なかなか手に取らないような本を手にとらせることも図書館の仕事だ。いま、本屋で、あるアイドルグループのメンバーが読んでいた本や、部屋に置いていた本を並べると、とても売れ行きがよいという話を聞く。どのような本か見てみると、ユングやニーチェなどがあり、図書館で借りようとする貸し出されていたりする。普段手に取らないような本でも、自分の推しメンバーが読んでいるとなると手に取る。読んでみようとする姿勢が大切だと思う。全集がずらっと並んでいる本棚があっても食指が動かないが、例えばAVコーナーにそのような選書をして置いておくと借りられるのではないかと、思う。AVコーナーに新しいDVDが入ったことを表示すると同時に、その原作の本を並べるなど、連携をして読ませるということも大切なのではないかと。

#### 事務局

視聴覚資料を持っているという点は市立図書館の売りの一つだと思う。それらの資料と本を関連付けた展示も行ってみたい。

#### 委員

新しい本を購入する際に何か参考にしているものはあるか。

#### 事務局

「全点案内」というTRCが出しているカタログを参考にしたり、書店が新刊の見本を持ってきてくれたりしたものを中心に選んでいる。郷土資料については、出版社や本屋に出向き、新しく出たものを購入している。資料を購入する予算については、令和2年度から令和3年度にかけて1千万円ほど削られた。さらに、令和3年度から令和4年度にかけてはさらに500万円ほど削られている。令和元年度に購入することのできた冊数から大きく縮小しているため、新刊の購入が減り、量的に満足度が下がる要因となっているように思う。資料の質でカバーしていきたい。

#### 委員

中学校で新刊を入れる際の予算も削られている。イベントとして、購入する新刊について生徒にどう思うか尋ねるとのこと年2回している。そのようなイベントを図書館で行ってみるのはどうか。自分で選んだ新しい本が図書館に入るかもしれない、と思うと借りたくなるのではないかと。

#### (天文館図書館)

#### 委員

アンケート調査結果を見ると天文館図書館はとても好評だが、今からが正念場だと思っている。利用者が多くイベントが成功している今だからこそ、これを維持していくために、先を見据えていくことが大事だ。センテラス天文館には72店舗が入っており、多くは鹿児島県外の企業である。鹿児島の学生たちがそこで働き、売られているものを購入するのも鹿児島県民・市民であり、そこに入ったお金は県外へ流れていく。このことについて天文館図書館も考えないといけない。天文館図書館に人が多く入る

だけでなく、他のテナントにも入るように考える必要がある。常に先を見ていくことが経営戦略として必要かと思う。

#### 委員

天文館図書館が昨年できて、最初の4～5月は物珍しさで入館者が多かったが、だいぶ落ち着いてきた。図書館だけを目当てに来られる方は少ないと思うが、それでも月平均して5～6万人が使っており、街の回遊性に寄与している。

天文館地域の一番の弱点は、無料駐車場がないという点である。その点で、他の大型店舗などに負ける。利用者アンケートでもわかるとおり、駐車場を利用して来られる方は少ない。バスなどの公共交通機関を利用して、わざわざ天文館に来てくれる方がだいぶ増えたのではないかと予想していたが、どちらかというとな配の方が図書館に行かれているという話を聞いている。そういう新しい層を発掘できたのではと思う。今後のまちづくりの根幹に、市立図書館も絶対に関わってくるだろうと思っている。これから2～30年かけて、市立図書館も、いま現在のものだけでなく、一緒にまちづくりをしていけたらよいと個人的には思う。まちづくりのことまで考えてもらってありがたい。一緒に街の回遊性を高めていければと思う。

これからどんどんコンパクトシティになっていき、まちなかに人が集まってくると言われている。それも含めて可能性を考えていけたらと考えている。

#### 委員

活動報告においては、天文館図書館でのイベントはかなり好評であったとのことだったが、利用者アンケート結果のイベント満足度においては「満足」「ほぼ満足」が30%台となっているから、アンケートを答えた方とイベントに来られた方との間で齟齬があると感じた。「どちらともいえない」という方たちを、どう満足の方へ引っ張っていくかが課題だ。発信、あるいはアイデアが、今後重要になると感じる。どこでも企画ごとは常習化していく。そうすると、固定層はつくが、新しい方が来ない。全て新しい企画をするのは大変なので、隔年ごとにするとか、サイクルを設けていくとかしつつ、新しいものは1つほど入れて散らすようにすればよいのではないかと。企画・イベントについては、工夫が求められるように思う。

### 議事（3） 令和4年度天文館図書館企画連携会議について

#### 委員

どれぐらいの年代の方が集まっているのか。

#### 事務局

全体で11名ほど集まっているが、下は大学生、上は5～60代までいて、幅広い年代層からバランスよく参加されている。

#### 委員

利用者が図書館に関わるかどうかで、図書館に対する愛情が違ってくる。

#### 事務局

最初に皆さんの思いを聞いたときに、「自分の人生の中で新しい図書館が出来る機会はないだろ

うと思った」、とおっしゃった方がいて、はっとさせられた。そういう思いを聞くと自分たちの励みにもなる。

#### 委員

建設的な意見が図書館に来るようになるかと思う。例えば先ほどの、予算が削られているため新刊が少なくなっているということに対して、市民として図書予算を増やしてもらうように提言していくような、自立した市民が育つ。そういった市民を育てていくことも大切だ。

#### 事務局

ご意見だけではなく、一緒に考えてくれる、作っていってくださるような方に参加してもらいたいと思っていたので、ありがたい。

## 4 その他

#### 委員

イベントとして、東京国立博物館や、国文学研究資料館、大英博物館などのデジタルアーカイブを見ている、ということ企画するのはどうか。紙媒体のものだけでなく電子媒体を活用した講座を取り入れたら、財源をとらず、スクリーンに映して見ることができ、少し負担も軽くなる。参加する方も、コロナ禍の中で旅行をしなくてもロゼッタストーンを見ることができる、などといったことを知ることができる。図書館は情報提供をする場所なので、そのようなイベントを考えてみてよいかと思う。

#### 事務局

このAVホール（注：図書館協議会会場）でもそのようなイベントができるように工夫していきたい。

#### 委員

目に見えるものがよくなることもいいかもしれないが、Wi-Fi 環境などの目に見えないものにも力を注いでほしい。

#### 事務局

大きいスクリーンに映して、一つの画面をみんなで共有していろいろな意見をかわせる、そういう状況まで持っていきたい。

#### 会議終了